令和４年度全国学力・学習状況調査結果について
～滝川市立小学校、中学校の学力の状況等～

滝 川 市 教 育 委 員 会
（担当：教育総務課）

１　調査の概要

（１）実施期日　　令和４年４月１９日（火）

（２）調査の対象学年
・小学校第６学年、中学校第３学年の全児童生徒を対象

（３）調査の内容
①教科に関する調査（国語、算数・数学）
小学校（国語：１４問、算数：１６問、理科：１７問）
中学校（国語：１４問、数学：１４問、理科：２１問）
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

（４）参加状況（悉皆調査）
小学校６校　中学校３校

（５）参加児童生徒数（下表）

	学 校	対象児童数	受験者数	未受験数
小学校第６学年	滝川第一小	26	25	1
	滝川第二小	48	44	4
	滝川第三小	61	47	14
	西小	52	49	3
	江部乙小	10	10	0
	東小	80	73	7
	計	277	248	29
	参加率	89．5%		

	学 校	対象生徒数	受験者数	未受験数
中学校第３学年	江陵中	113	93	20
	明苑中	143	122	21
	開西中	44	36	8
	計	300	251	49
	参加率	83．7%		

２　教科に関する調査の結果

全国・全道の平均正答率に対し、本市の児童生徒の平均正答率を
上回っている(5%以上)、やや上回っている(3%以上5%未満)、
同程度(上位)(1%以上3%未満)、同程度(±1%未満)、同程度(下位)(−3%より上−1%以下)
やや下回っている(−5%より上−3%以下)、下回っている(−5%以下)　で示した。

（１） 小学校

①【国語】
　滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（６５.６％）、全道の平均正答率（６４％）と同程度（下位）の正答率である。

②【算数】
　滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（６３.２％）をやや下回り、全道の平均正答率（６１％）と同程度（下位）の正答率である。

③【理科】
　滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（６３.３％）、全道の平均正答率（６３％）と同程度（下位）の正答率である。

（２） 中学校

①【国語】
　滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（６９．０％）、全道の平均正答率（６９％）と同程度（上位）の正答率である。

②【数学】
　滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（５１．４％）をやや下回り、全道の平均正答率（４９％）と同程度（下位）の正答率である。

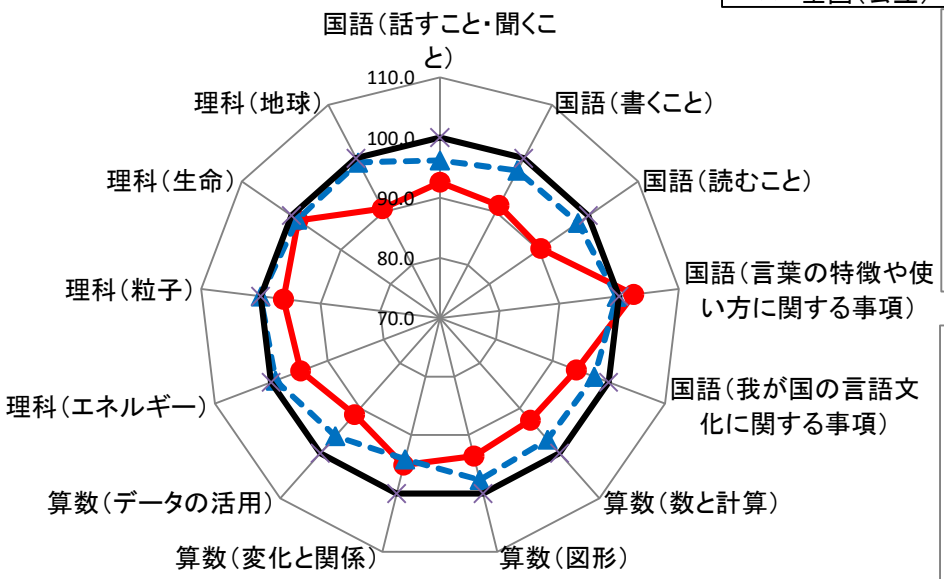
③【理科】
　滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（４９.３％）、全道の平均正答率（４９％）と同程度の正答率である。

※文部科学省の発表に基づき、全国の平均正答率は小数第１位まで、全道の平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示す。

3　滝川市立小学校の学力の状況及び学力向上策（学校数：6校、児童数：248名）

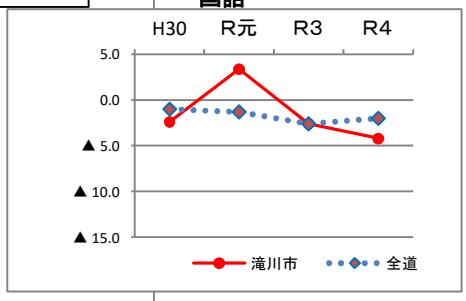
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
（滝川市の平均正答率÷全国の平均正答率×100で算出）

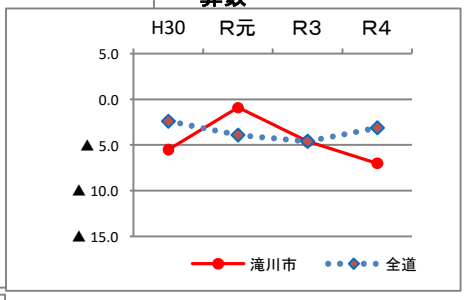


※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を経年変化で表したもの。令和2年度の調査は中止。

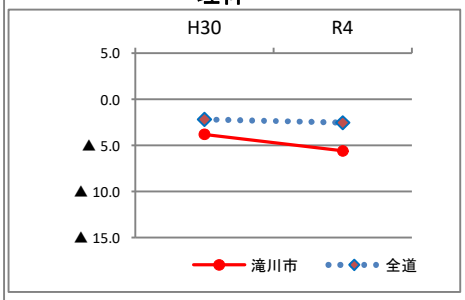
国語



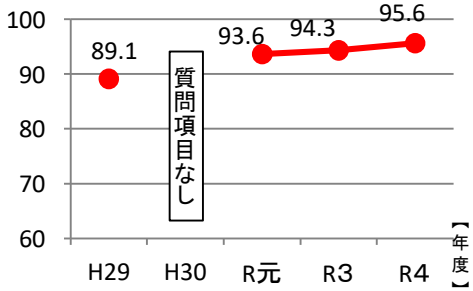
算数



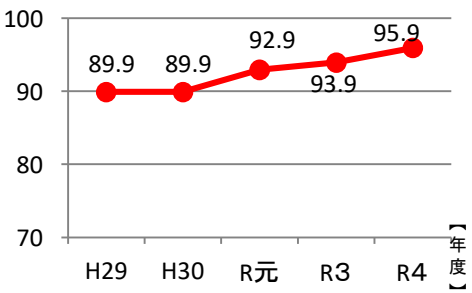
理科



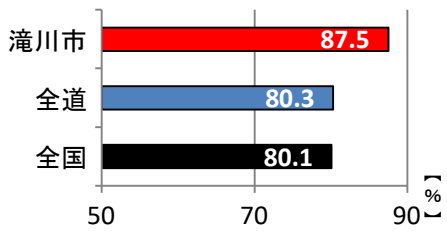
国語の勉強は大切だと思う



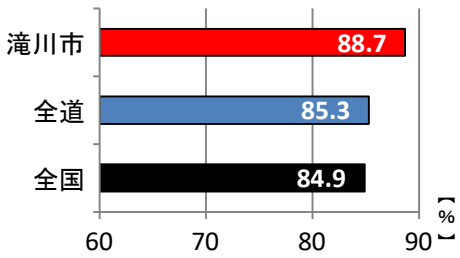
算数の勉強は大切だと思う



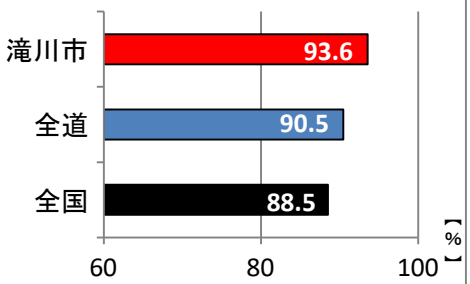
学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている



理科の授業で，観察や実験の結果から，どのようなことが分かったのか考えている



理科の授業の内容はよく分かる



【分析】

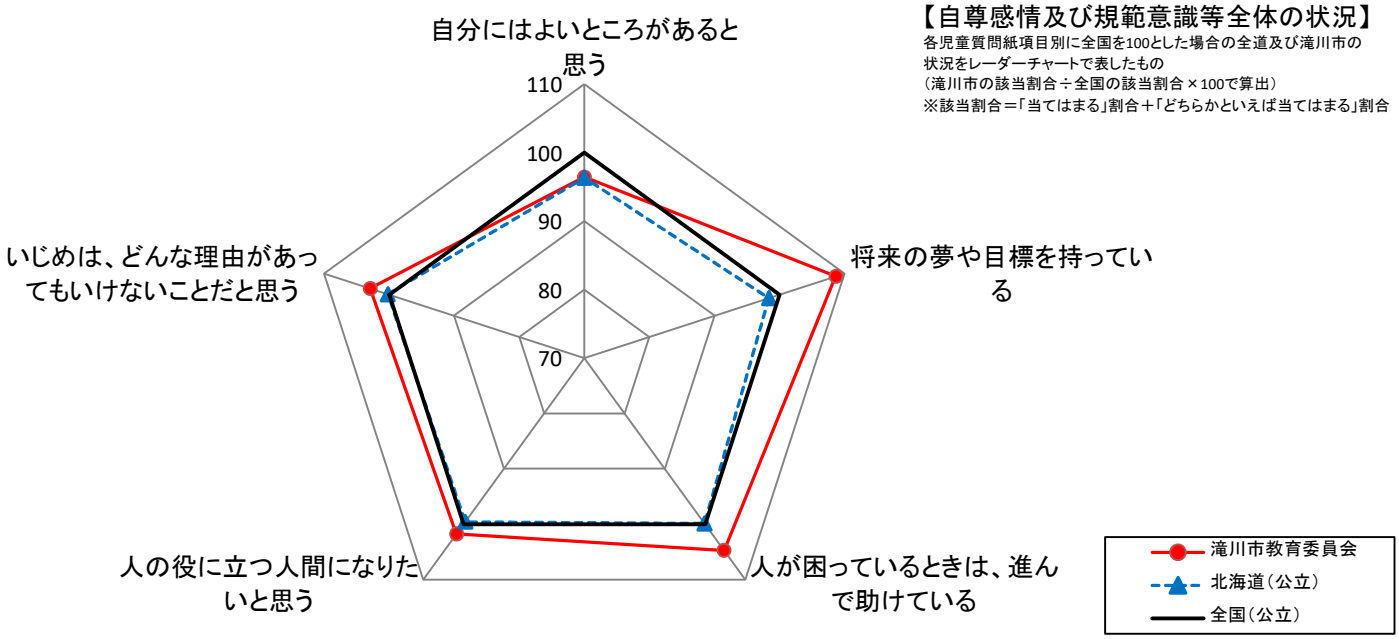
教　　科	国語の平均正答率は全国・全道の平均正答率と同程度となった。一方、算数の平均正答率は、全国の平均正答率をやや下回り、全道の平均正答率と同程度となった。理科の平均正答率は全国・全道の平均正答率と同程度となった。領域別に見ると、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国・全道の平均正答率を上回った。また、算数の「変化と関係」は、全道の平均正答率を上回った。しかし、国語の「読むこと」、算数の「データの活用」、理科の「地球」は全国・全道との差が大きく、苦手としていることがわかる。	学校は、児童の姿や地域の現状等に基づき、教育課程を編成・実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立させた。また、児童の学習状況や課題を全教職員で共有し、学力向上プランの見直しを図りながら、組織的に授業改善に取り組んできた。引き続き、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、児童が自らの学びの変容を見取り、自らの学びの高まりを自覚できるようにすることが大切である。
児童質問紙	「国語の勉強が大切だと思う」と回答した割合は、1．3%の伸びが見られ、「算数の勉強が大切だと思う」と回答した割合は、2%の伸びが見られたことは、児童のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにした成果と考えられる。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている」と回答した割合が、全国・全道の平均を上回っていることから、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が各学校で進められていると思われる。理科の授業で、観察や実験の結果を整理し、考察する指導を行ったことにより、「理科の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国・全道の平均を上回ったと	
学校質問紙	すべての学校において「授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている」「国語の指導として、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行った」「理科の指導として、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行った」「前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた」と回答した。	

【滝川市の学力向上策】

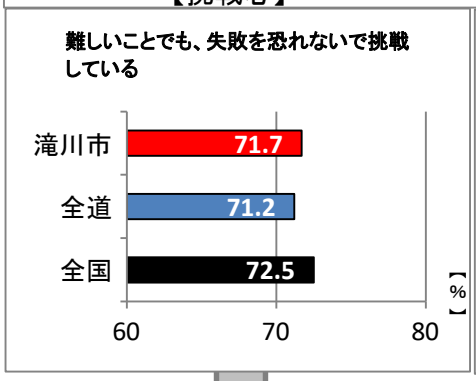
○個に応じた学びの支援のため、「学びサポーター」の活用など少人数指導体制を積極的に推進している。
○ティーム・ティーチング指導や習熟度別指導を取り入れ、一人一人の児童が抱える学習のつまずきの解消や発展的な学習の充実に取り組んでいる。
○各学校において家庭学習の手引を作成・活用し、望ましい家庭学習の定着に向けた取組を各家庭と連携して推進している。
　※校区内の小学校と連携して作成した手引を用いている学校もある。
○放課後や長期休業中の学習機会を拡充し、補充的・発展的な学習に取り組ませるとともに、児童の家庭学習への意欲化・定着化を図っている。
○授業改善推進チーム活用事業を活用した学校間の取組を市内のすべての小学校に発信し、積極的な授業改善を推進している。
○教職員の指導力向上、指導内容や指導方法等の改善を図るための教職員研修会を実施する。
○1人1台端末などのICT機器を効果的に活用するため、教員の外部研修への参加や校内研修を促進し、児童生徒の学習意欲を引き出す質の高い授業を目指した授業改善を推進している。

4　滝川市立小学校の学習状況及び改善策（学校数：6校、児童数：248名）

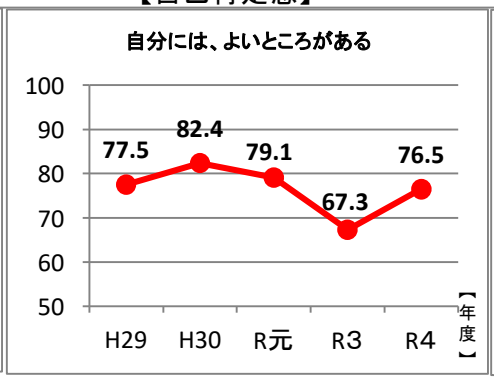
【自尊感情及び規範意識等全体の状況】
各児童質問紙項目別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
（滝川市の該当割合÷全国の該当割合×100で算出）
※該当割合＝「当てはまる」割合＋「どちらかといえば当てはまる」割合



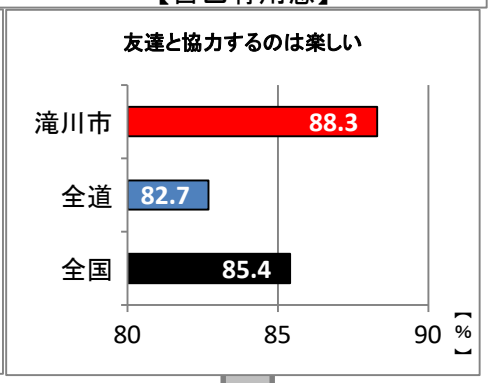
【挑戦心】



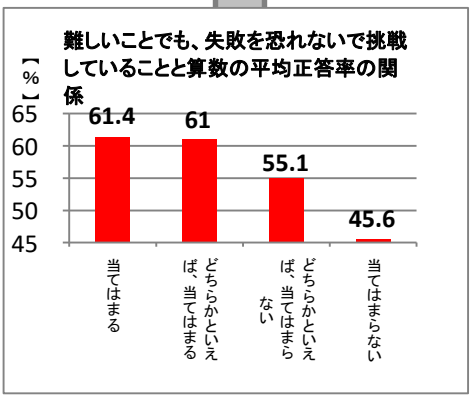
【自己肯定感】

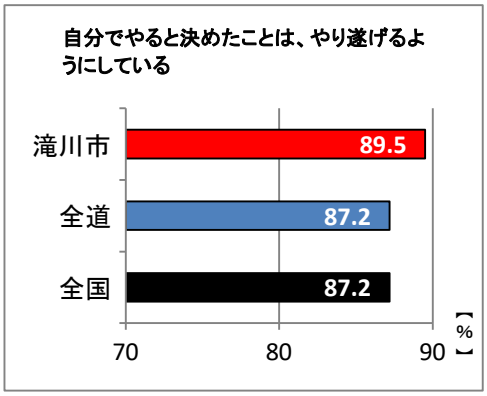


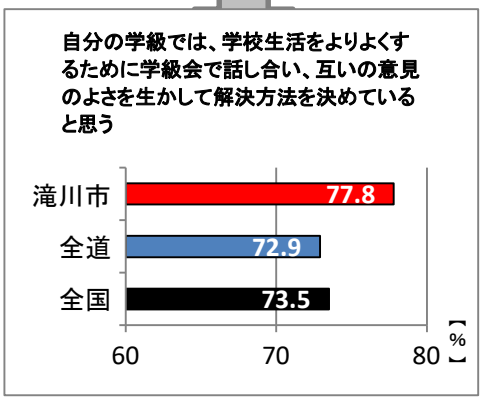
【自己有用感】



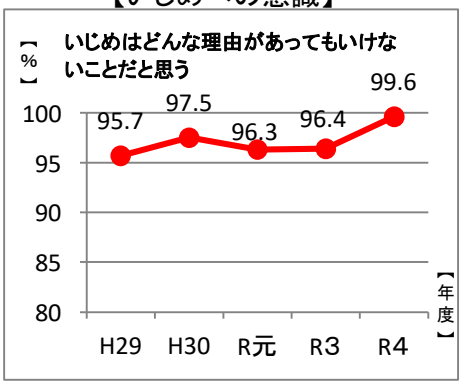
【粘り強さ】







【いじめへの意識】



【分析】

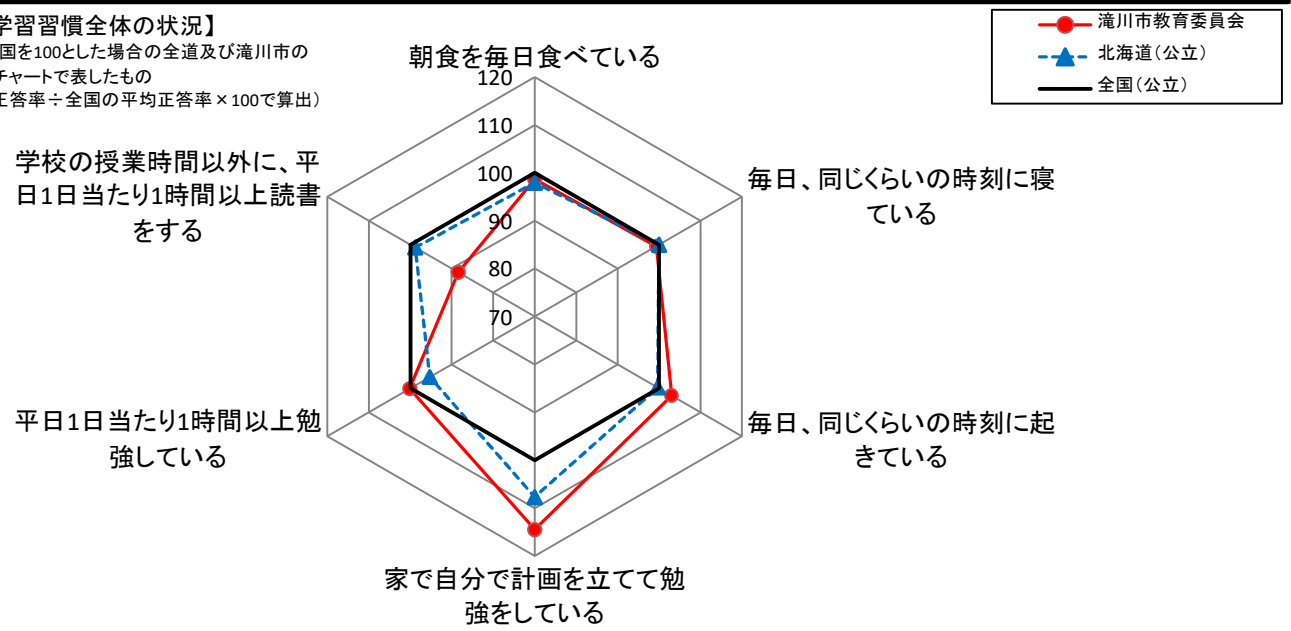
○「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合は、全国・全道平均を上回っており、特別活動を要としたキャリア教育の充実がその要因の一つと考える。今後も、小中9年間を見越したキャリア教育の推進が望まれる。
○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合は、ここ数年でもっとも高い割合となっている。滝川市は、その割合が　100%となるよう目標を掲げて施策を推進している中で、各学校において児童・家庭への啓発活動及び児童による主体的な活動が行われていることが要因と考える。
○「友達と協力するのは楽しい」と回答した割合は、全国・全道平均を上回っており、学級会等において、友達の意見を尊重し、解決方法を決めていたことがその要因と考える。
○「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と回答した割合は、全国・全道の割合を下回った。難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していることと算数の平均正答率については、相関関係が見られている。

【滝川市の改善策】

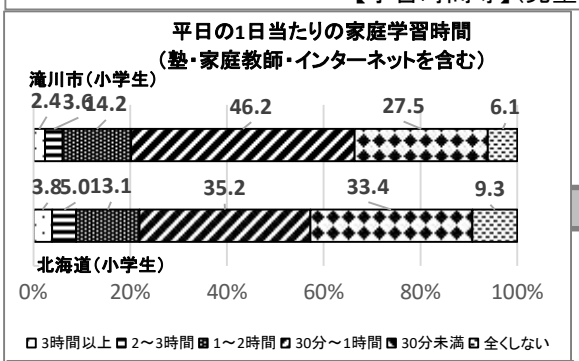
○「自分にはよいところがあると思う」と回答した割合は、全道の割合を上回り、昨年度より9．2%の伸びが見られた。引き続き、友達と認め合い、高め合える学級の支持的風土を醸成するとともに、道徳等において、児童が自分のよさや特徴に気付き、自分の長所を伸ばしていこうとする態度を育てる。
○挑戦心や粘り強さを高めるために、学校生活において、一人で、または友達と協働し、難しいことにチャレンジできる場を設け、成功体験を積み重ねられる取組を充実させる。

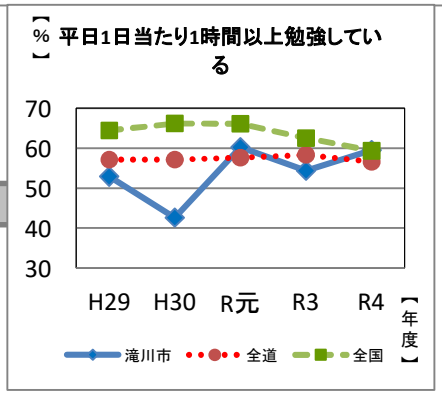
5　滝川市立小学校の学習状況及び改善策（学校数：6校、児童数：248名）

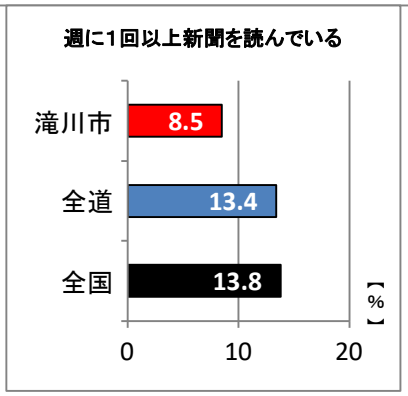
【家庭生活・学習習慣全体の状況】
質問事項別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
（滝川市の平均正答率÷全国の平均正答率×100で算出）

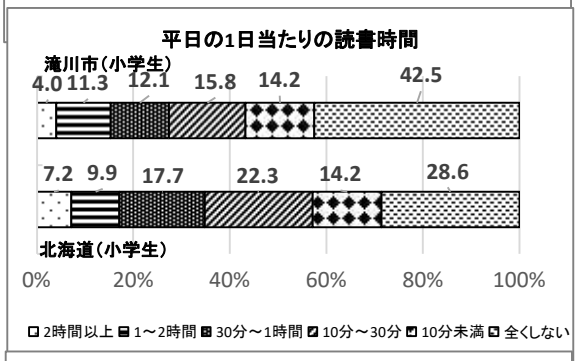


【学習時間等】（児童質問紙より）

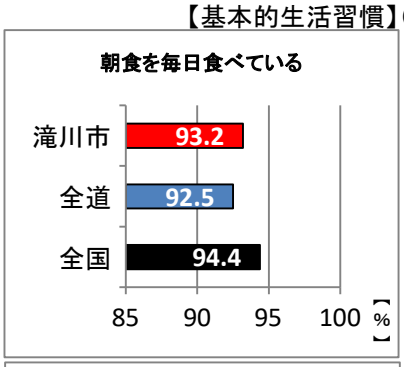


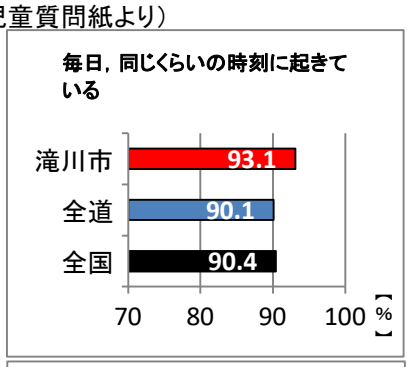


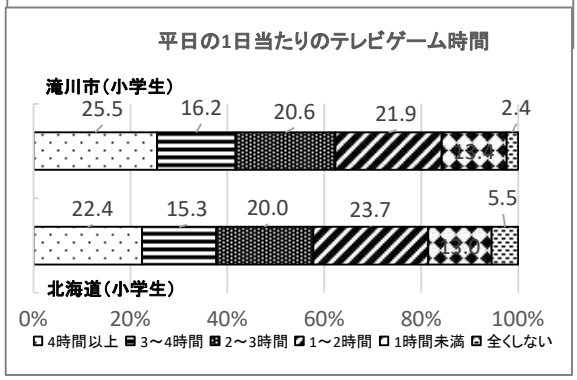


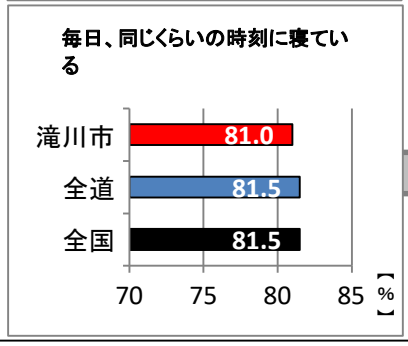


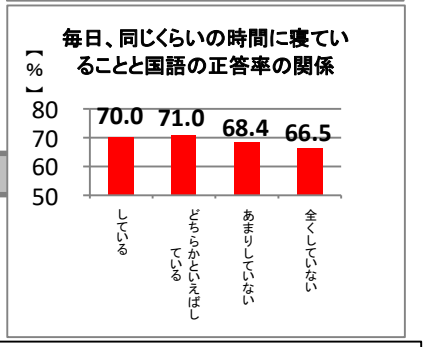
【基本的生活習慣】（児童質問紙より）











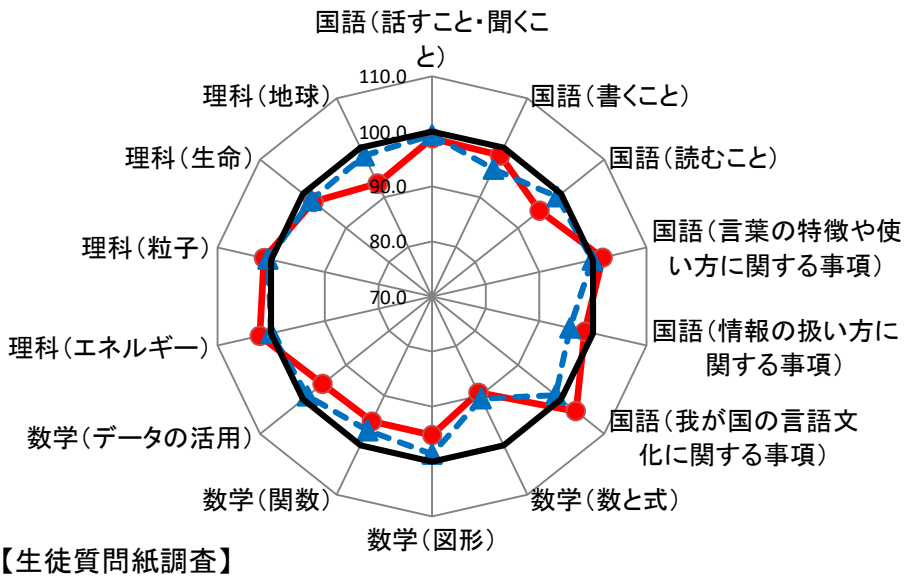
【分析及び改善策】

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合は、全国・全道の割合を上回った。また、「平日1日当たり1時間以上勉強している」と回答した児童の割合は、全道の割合を上回り、全国の割合と同等だった。引き続き、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったり、各家庭と連携して推進したりするとともに、学校では児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えていく。
○「学校の授業時間以外に，平日1日当たり「読書を全くしない」と回答した児童の割合は、全道の割合を上回り、全国の割合を16．2%上回った。読書は、言葉を学ぶだけでなく、表現力や想像力を豊かにする上で欠かせないものであることから、今後、保護者の協力を得ながら、家庭等での読書活動を習慣化する必要がある。
○「平日の1日当たりのテレビゲーム時間」は全国・全道の平均よりも長い傾向がある。各学校で、「生活リズムチェックシート」を活用するなど、1日のゲーム時間を調整できるよう指導する必要がある。また、保護者に対して、家庭で「テレビ、ゲーム、スマホのルール」について話し合い、守ることの必要性について情報発信をしていく。
○「朝食を毎日食べている」と回答した児童の割合は、全道の割合を上回り、全国の割合を下回った。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童の割合は、全国・全道の割合を下回り、そのことと国語の平均正答率には、相関関係が見られている。そのため、望ましい生活習慣の確立に向けて、家庭と学校が連携する必要がある。
○「週1回以上新聞を読んでいる」と回答した児童の割合は、全国・全道の割合を下回っている。社会に目を向けさせたり、多様な見方や考え方に基づき、読解力・思考力・判断力・表現力等を身に付けさせたりするためにも、新聞等を活用した授業等を行うことが求められる。

6　滝川市立中学校の学力の状況及び学力向上策（学校数：3校、生徒数：251名）

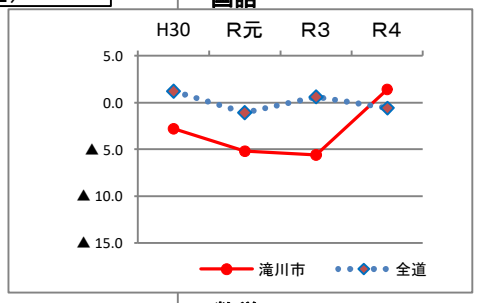
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
（滝川市の平均正答率÷全国の平均正答率×100で算出）

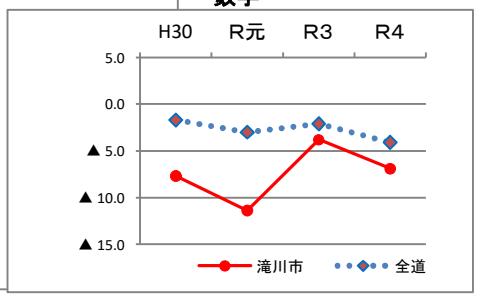


※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を経年変化で表したもの。令和2年度の調査は中止。

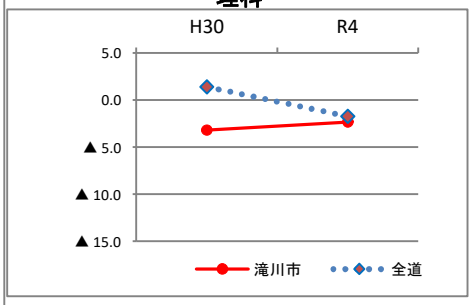
国語



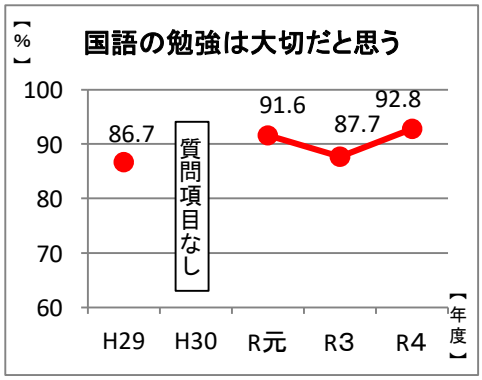
数学

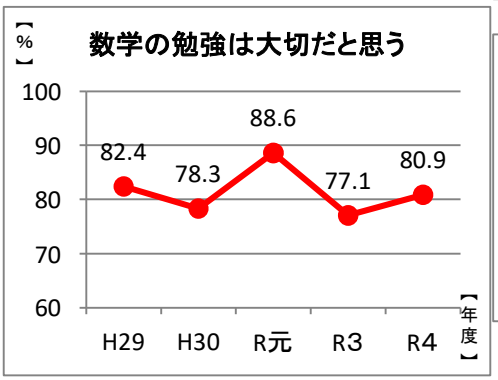


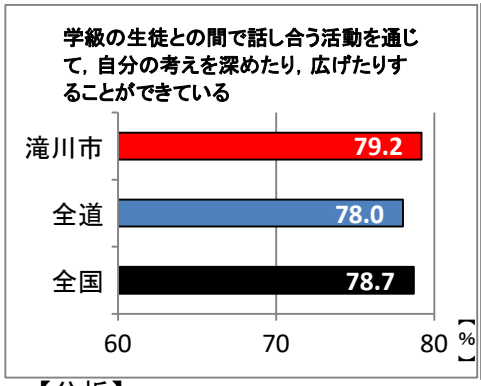
理科

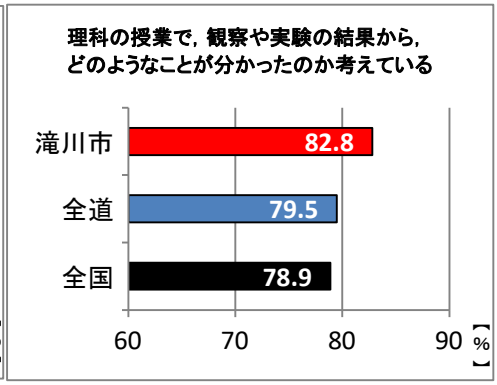


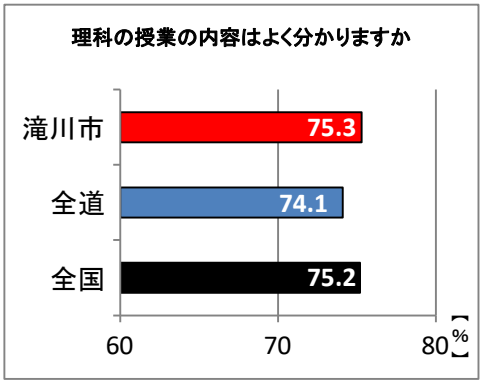
【生徒質問紙調査】











【分析】

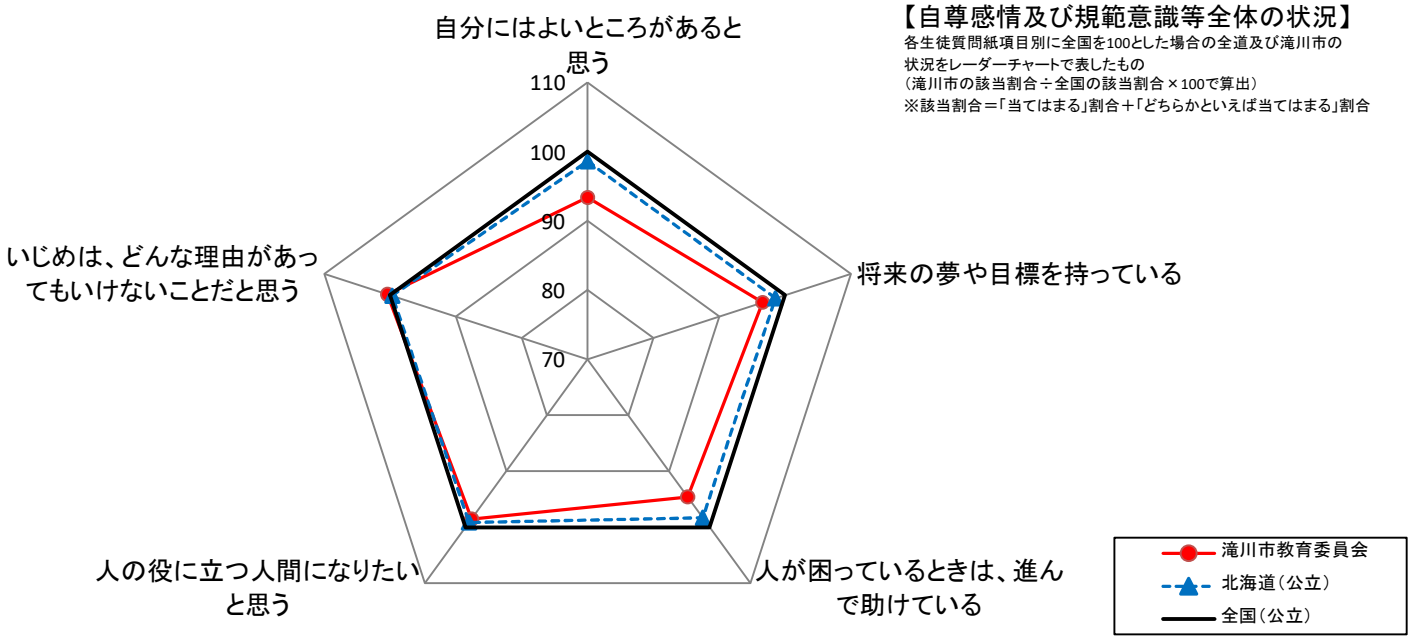
教　　科	国語の平均正答率は、全国・全道の平均正答率を上回った。一方で、数学の平均正答率は、全国をやや下回り、全道の平均正答率と同程度となった。理科の平均正答率は全国・全道の平均正答率と同程度となった。領域別にみると、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」は全国・全道の平均正答率を上回った。理科の「エネルギー」「粒子」において、全国・全道の平均正答率を上回った。国語は「読むこと」において全国・全道の平均正答率を下回った。数学は全て分野において全国・全道の平均正答率を下回った。数学の「数と式」と理科の「地球」において、全国の平均正答率との差が大きいことから、苦手としている傾向が見られた。	学校は、生徒の姿や地域の現状等に基づき、教育課程を編成・実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立させた。また、児童の学習状況や課題を全教職員で共有し、学力向上プランの見直しを図りながら、組織的に授業改善に取り組んできた。引き続き、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、生徒が自らの学びの変容を見取り、自らの学びの高まりを自覚できるようにすることが大切である。
生徒質問紙	「国語の勉強が大切だと思う」と回答した割合は、5．1%の伸びが見られ、「数学の勉強が大切だと思う」と回答した割合は、3．8%の伸びが見られたことは、生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにした成果と考えられる。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている」と回答した割合が、全国・全道の平均を上回っていることから、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が各学校で進められていると思われる。理科の授業で、観察や実験の結果を整理し、考察する指導を行ったことにより、「理科の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国・全道の平均を上回ったと考えられる。	
学校質問紙	すべての学校において「授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている」「国語の指導として、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行った」「理科の指導として、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行った」「前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた」と回答した。すべての学校が、「前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業」を「ほぼ毎日行った」と回答した。	

【滝川市の学力向上策】

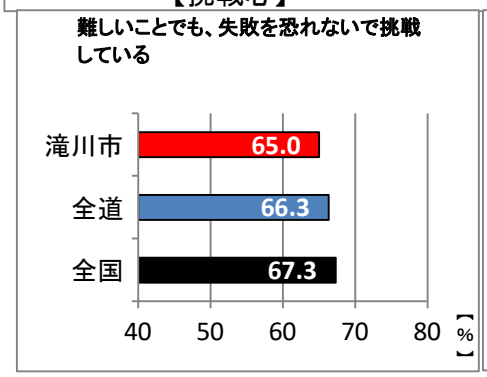
○個に応じた学びの支援のため、退職教員等外部人材活用事業や「学びサポーター」の活用など少人数指導体制を積極的に推進している。
○学力の二極化を解消するため、ティーム・ティーチング指導や習熟度別指導を取り入れ、知識や技能を活用する力を育成している。
○各学校において家庭学習の手引を作成・活用し、望ましい家庭学習の定着に向けた取組を各家庭と連携して推進している。
　※校区内の小学校と連携して作成 した手引を用いている学校もある。
○放課後や長期休業中の学習機会を拡充し、補充的・発展的な学習への取組を推進している。
○小学校における授業改善推進チーム活用事業の取組を参考にした積極的な授業改善を推進している。
○教職員の指導力向上、指導内容や指導方法等の改善を図るための教職員研修会を実施する。
○1人1台端末などのICT機器を効果的に活用するため、教員の外部研修への参加や校内研修を促進し、児童生徒の学習意欲を引き出す質の高い授業を目指した授業改善を推進している。

7　滝川市立中学校の学習状況及び改善策（学校数：3校、生徒数：251名）

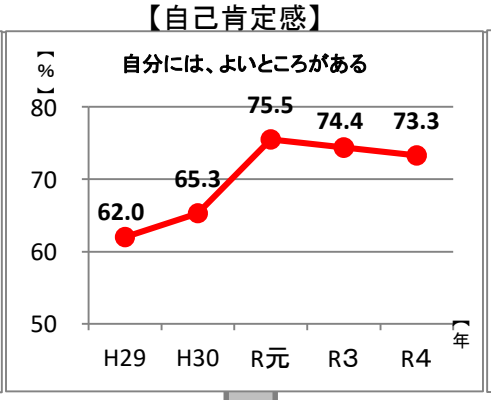
【自尊感情及び規範意識等全体の状況】
各生徒質問紙項目別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
（滝川市の該当割合÷全国の該当割合×100で算出）
※該当割合＝「当てはまる」割合＋「どちらかといえば当てはまる」割合



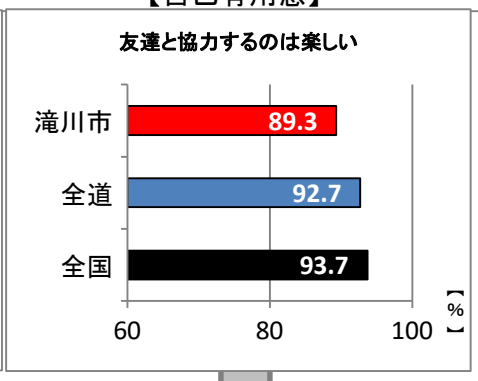
【挑戦心】



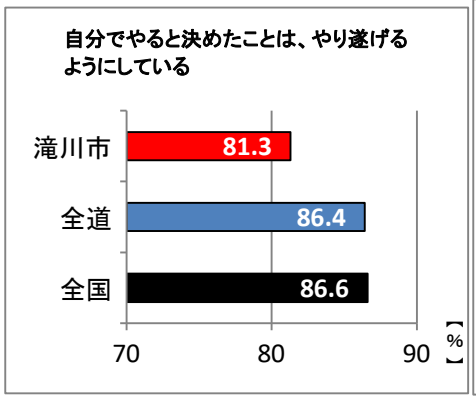
【自己肯定感】

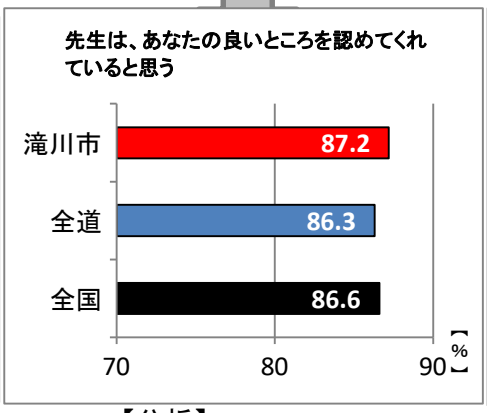


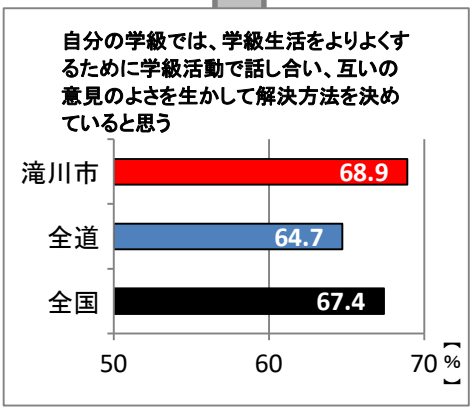
【自己有用感】



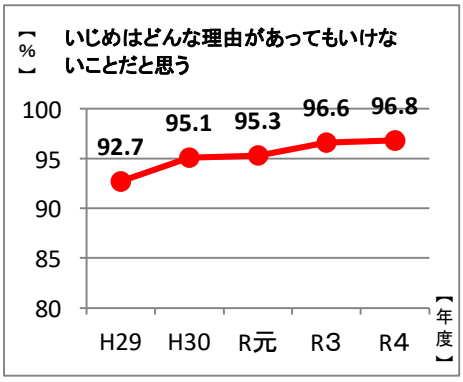
【粘り強さ】







【いじめへの意識】



【分析】

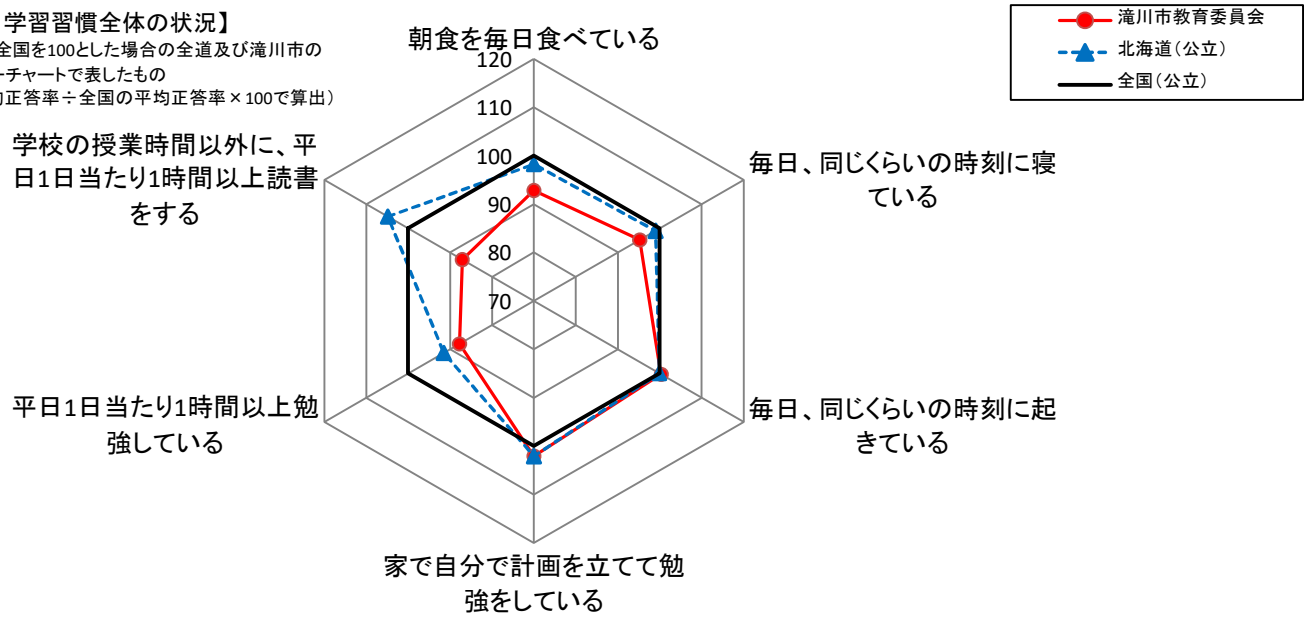
○「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合は、全国・全道平均を下回っている。今後は、「キャリアパスポート」の積極的な活用等、小中9年間を見越したキャリア教育の推進が望まれる。
○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合は、ここ数年でもっとも高い割合となっている。滝川市は、その割合が100%となるよう目標を掲げて施策を推進している中で、各学校において生徒・家庭への啓発活動及び生徒による主体的な活動が行われていることが要因と考える。
○「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を下回った。教育活動全体を通して失敗しても励まし合える人間関係の醸成が望まれる。
○「友達と協力するのは楽しい」と回答した割合は、全国・全道平均を下回った。しかし、学級会等において、友達の意見を尊重し、解決方法を決めている割合は全国・全道の平均を上回ったことから、今後もそのような機会を充実させることで、自己有用感の高まりにつながると考えられる。
○「自分には、よいところがあると思う」と回答した割合は、全国・全道平均を下回ったが、「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う」と回答した割合は、全国・全道平均より高いことから、今後の自己肯定感の高まりにつながると考えられる。

【滝川市の改善策】

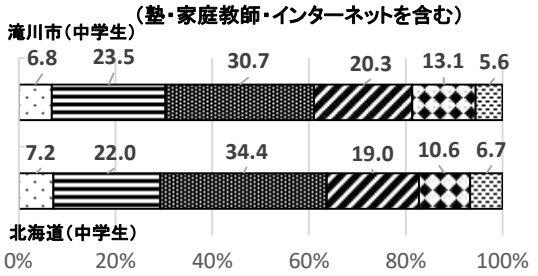
○「自分にはよいところがあると思う」と回答した割合は、全国・全道の割合を下回った。そのため、道徳等において、友達と互いに認め合う関係づくりの取組や自己の変容を実感できる学びの積み重ねの振り返りを工夫しながら自己肯定感を育んでいく。
○「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と回答した割合は、全国・全道の割合を下回った。そのため、生徒の学習状況を確認し、学習意欲が持続できるような声かけをしたり、時には「できない」「無理かもしれない」と感じるような場面を意図的に設定し、そのネガティブな気持ちを乗り越えさせたりしながら、達成感や充足感を味わわせていく。

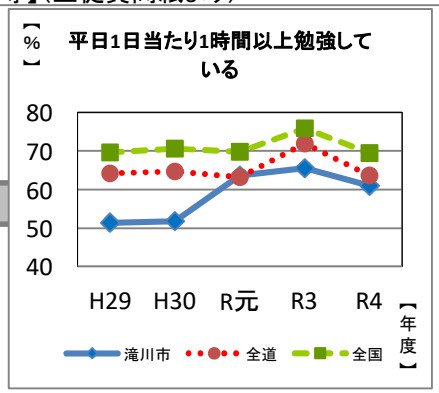
8　滝川市立中学校の学習状況及び改善策（学校数：3校、生徒数：251名）

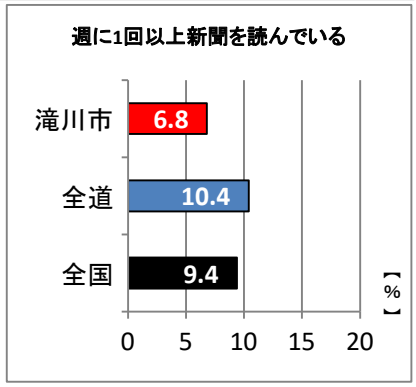
【家庭生活・学習習慣全体の状況】
質問事項別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
（滝川市の平均正答率÷全国の平均正答率×100で算出）

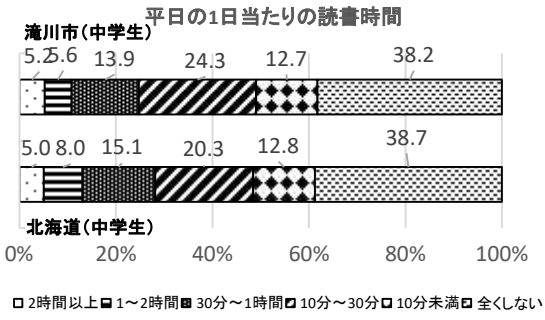


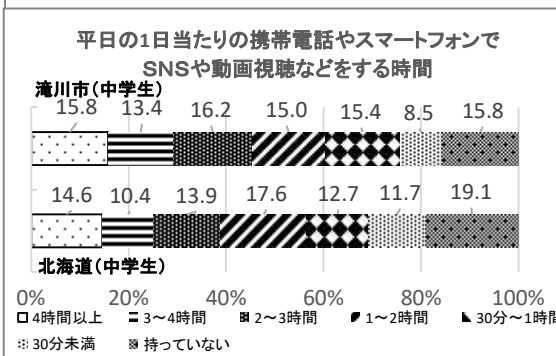
【学習時間等】（生徒質問紙より）



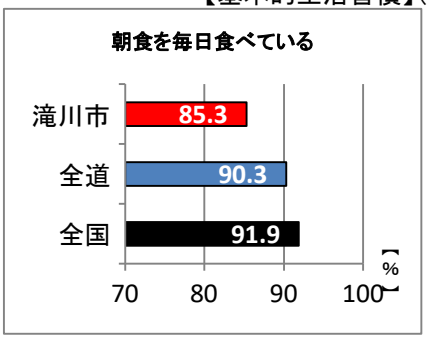


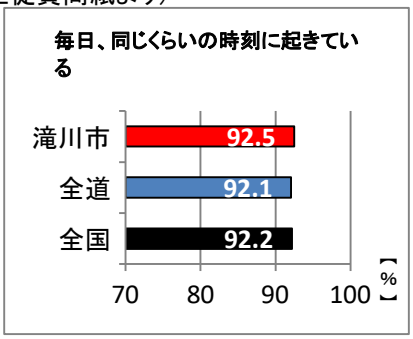


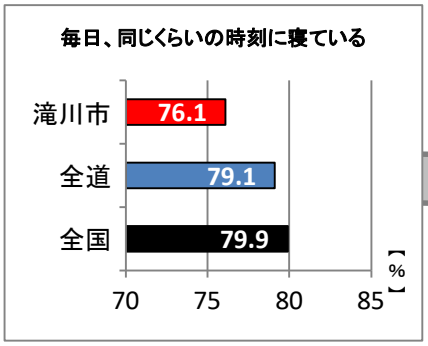


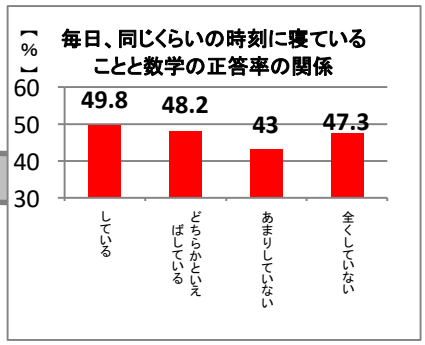


【基本的生活習慣】（生徒質問紙より）









【分析及び改善策】

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した生徒の割合は、全道の割合は下回ったものの、全国の割合を上回った。しかしながら、「平日１日当たり１時間以上勉強している」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を下回った。引き続き、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったり、各家庭と連携して推進したりするとともに、学校では生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えていく。
○「学校の授業時間以外に、平日１日当たり１時間以上読書をする」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を下回ってはいるものの、「読書を全くしない」と回答した生徒の割合は、全国・全道より低い。計画的な読書活動が行えるよう、生徒への適切な読書指導及び家庭への働きかけがあったためと考える。
○「平日の１日当たりの携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをする時間」は全国・全道の平均よりも長い傾向がある。各学校で、「生活リズムチェックシート」を活用するなど、１日のスマホ等の使用時間を調整できるよう指導する必要がある。また、保護者に対して、家庭で「テレビ、ゲーム、スマホのルール」について話し合い、守ることの必要性について情報発信をしていく。
○「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を下回ってはいるものの、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を上回った。引き続き、望ましい生活習慣の確立に向けて、家庭と学校が連携し、推進していく必要がある。毎日、同じくらいの時刻に寝ていることと数学の平均正答率には、相関関係が見られる。
○「週１回以上新聞を読んでいる」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を下回っている。社会に目を向けさせたり、多様な見方や考え方に基づき、読解力・思考力・判断力・表現力等を身に付けさせたりするためにも、新聞等を活用した授業等を行うことが求められる。